土地利用計画及び配置計画・施工計画について（事業者の提案と市の意見）

現状

ﾊﾞﾘｱﾌﾘｰ化の必要性
（ⒶⒷⒸ ｴﾝﾄﾗﾝｽ）

老朽化している藤棚

更なる多目的利用が
望まれる広場

遊具の老朽化と不足

課題

■現代のニーズにマッチしていない公園施設

■施設の老朽化

■新たな生活様式に対応し、賑わいを創出する場所づくり

着眼点

〇利活用を促し、新たな賑わいを創出する場所づくり

〇安全安心にも配慮したユニバーサルデザインの実現

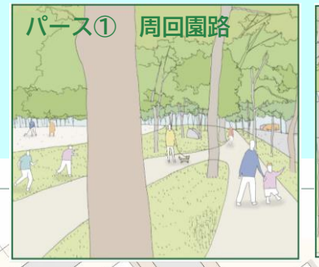
〇誰もが使いやすいインクルーシブな公園デザイン

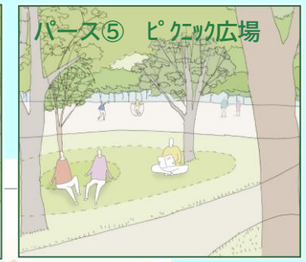
インクルーシブパークとは

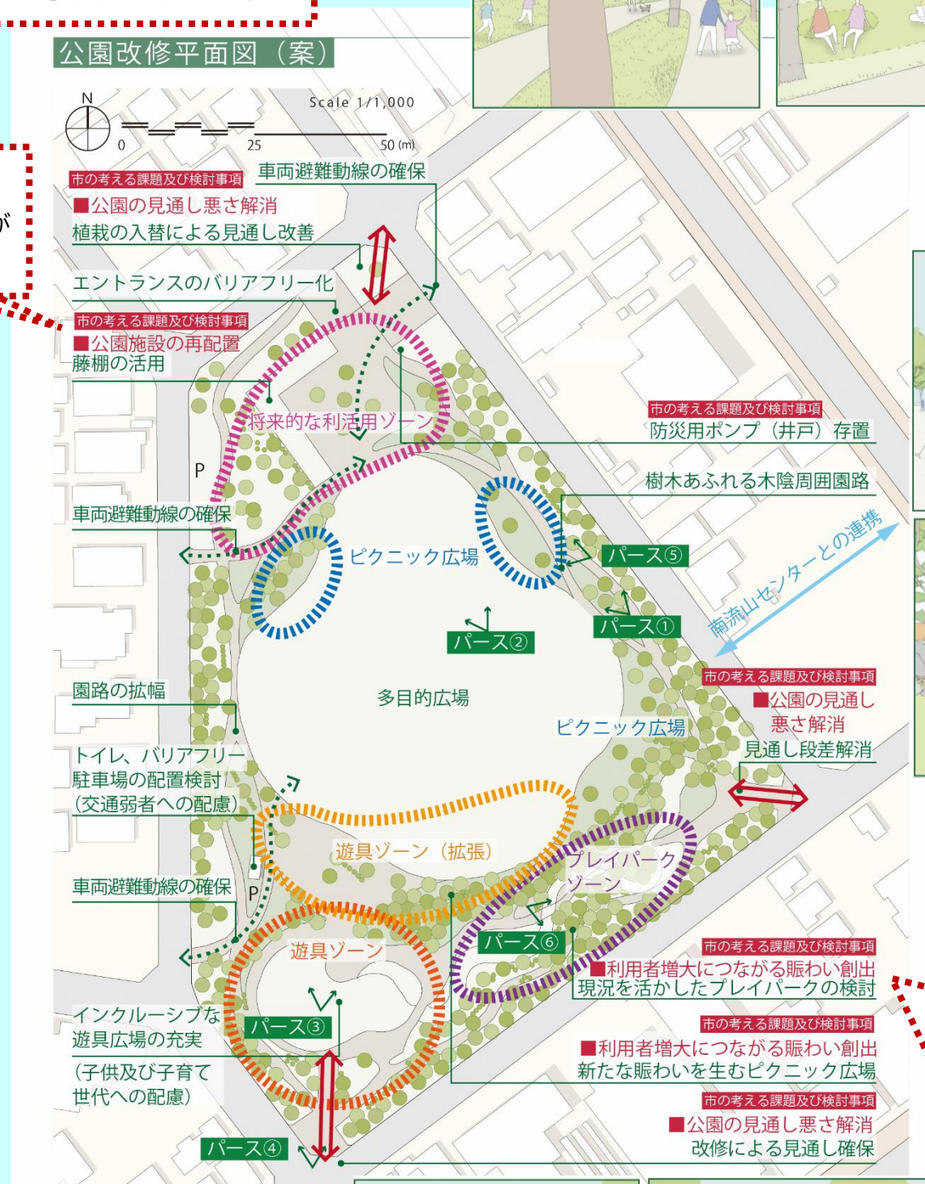
障がいや年齢に関係なく誰もが楽しめる公園のあり方のこと

計画案

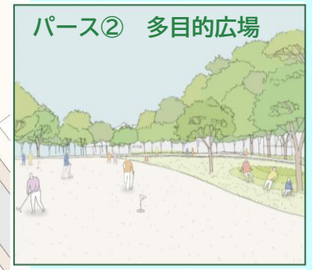
要検討は、事業者の提案に対し、今後内容を特に精査する必要があると市が考えているものです。

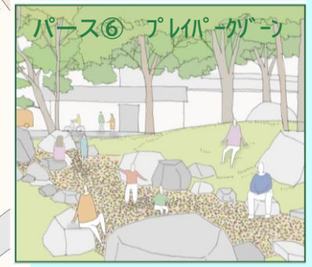






要検討
・藤棚の活用が課題です。



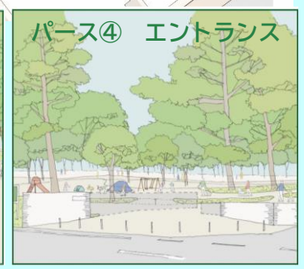


要検討
・年間を通したプレイパーク的活用について、検討する必要があります。
・プレイパークは「見守り役」が必要となります。

プレイパークとは

遊具等による遊びではなく、自然のものから自由な発想で木登りや泥んこ遊び、工作など日常でなかなかできない、子どもが遊びを自ら作れる遊び場のこと

インクルーシブ遊具例



1　多様な使われ方を想定したデザイン

・樹木あふれる木漏れ日の散策路として周回できる園路を計画します。　パース①

・これまでの広場の利用方法を可能としたうえで、野球場としての固定的な利用イメージを刷新し、様々な公園利用を可能とする広場とします。　パース②

・園路と中央の広場の間にも小広場を設け、樹木と植えることで木陰の広場をつくります。ピクニックなどの屋外利用が可能な居心地の良い場所とします。　パース⑤

2　エントランス空間や園路のバリアフリー化

・公園内のエントランス空間をすべてバリアフリー化し、高齢者や障がい者、子ども等誰もが使いやすい、入りやすい公園空間とします。　パース④

・公園内にある園路は幅員が狭く、すれ違いができないため、すれ違い可能な広さに拡幅を行います。その際に、現況の樹木に支障がないように配置計画を行います。　パース①

3　子育て環境を応援するインクルーシブな場所づくり

・敷地北側のエリアは藤棚やトイレの改修も見込んだ場所として大きく手を加えず、自由な活用が可能な場所として位置づけます。

・北側エリアは車が乗り入れ可能な場所としても計画し、ケータリングカーや管理車両が侵入可能な場所とします。

・子育て世代等が居住地として選択する地域として賑わいが持続することを目指し、インクルーシブな遊具広場の充実を検討します。　パース③